

2022年3月期
第2四半期累計期間
(2021年4月1日～2021年9月30日)
決算説明資料



2021年11月
ディーブイエックス株式会社
証券コード:3079

目次

1. 当第2四半期(累計期間)のハイライト P3
2. 当第2四半期(累計期間)の決算概況 P8
3. 2022年3月期の見通し P22

1. 当第2四半期(累計期間)のハイライト

新型コロナウイルス感染症の影響

2022年3月業績見通しにおける新型コロナウイルス感染症による影響の前提

①第1四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響が継続する。東京、大阪、京都を対象に4月25日から開始し、その後対象地域を追加し、期間が5月末日まで延長された緊急事態宣言期間においてはその影響を反映する。

②第2四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響が継続するが、その影響は第1四半期より軽減する。

③第3四半期および第4四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響は限定的とする。

第2四半期中に新たな緊急事態宣言。

上期を通して影響は継続した。

- ✓ 一部医療機関の新型コロナウイルス感染症患者治療への専念
- ✓ 医師、医療関係者、患者様の感染による治療行為自粛
- ✓ 行政による緊急性が低い症例の延期要請
- ✓ 外出控えによる外来患者数の減少
- ✓ 医療機関による感染対策の徹底、営業外交の制限

得意先病院における
症例数の減少

新規・販売活動の制限

ただし、影響は前期より縮小している。

影響の推移と地域別の比較

四半期毎売上高指数(累計ではない)の推移

※2020年3月期第3四半期(2019/10～12月)の売上高を100.0とした指数。

		緊急事態宣言①				緊急事態宣言②		緊急事態宣言③	緊急事態宣言④
		2020/3 3Q	2020/3 4Q	2021/3 1Q	2021/3 2Q	2021/3 3Q	2021/3 4Q	2022/3 1Q	2022/3 2Q
	関東	100.0	99.4	69.7	92.0	95.8	90.0	92.9	95.3
	関西	100.0	92.5	74.5	91.8	92.9	82.8	91.8	95.2
	中部	100.0	89.1	91.8	94.9	110.1	99.5	105.5	109.3
	その他地域	100.0	93.6	91.7	105.4	107.9	98.6	107.4	106.0
販売代理店業小計		100.0	96.8	75.6	94.0	98.9	91.7	96.2	98.4
総代理店業、他		100.0	125.4	79.4	90.2	80.8	110.8	72.2	95.3
全社		100.0	97.9	75.8	93.8	98.2	92.4	95.3	98.3

- ✓ 関東、関西地区の前期1Qの下落率が大、その後回復も影響は継続
- ✓ 中部、その他地域(東北、中国、四国、九州)は下落率が小、その後コロナ前を上回る

注:指数推移の要因は新型コロナウイルス感染症の影響が全てではありません。

2022年3月期の取り組み状況

①売上高伸長率の向上

- ☒施設拡大 ☒品目拡大 ☒医療機関との交渉強化 ☒CDR認定教育
- ☒SUD回収事業

➡取引開始口座30(施設拡大)、陰圧システムの販売好調(品目拡大)、価格交渉、商流獲得、商流変更(医療機関との交渉強化)、9月IBHRE試験合格19名・累計150名(CDR認定教育)、再製造品の販売・SUD回収事業の継続(SUD回収事業)。

②売上総利益(粗利)率の改善と営業利益の確保

- ☒高利益率商品の売上高構成比のアップ ☒メーカーとの交渉強化
- ☒拠点単位での適正な営業利益確保

➡自社企画品・機器類・買取商品の販売拡大、インセンティブ契約および獲得の拡大

➡不整脈事業粗利率改善(前年同期10.6%→上期10.7%)

2022年3月期の取り組み状況

③海外展開の具体化

☑ 自社製品について技術的準備、営業的準備のうえ輸出を具体化

- ➡ EPSトレーナーのバージョンアップ、Mac対応版開発
- ➡ EPSトレーナーの輸出(台湾、米国、ブラジル)
- ➡ EPSトレーナーのHRS出展(7月ボストン)

④その他：自社企画開発商品 RAQUOS

- ➡ ディスポーザブルキットの薬事認証取得(2021年7月)
- ➡ 2021年8月販売活動開始
- ➡ 複数施設で臨床デモ、マシンデモ実施
- ➡ 国内トップシェアを目指す商品
- ➡ 海外向け仕様モデルの準備



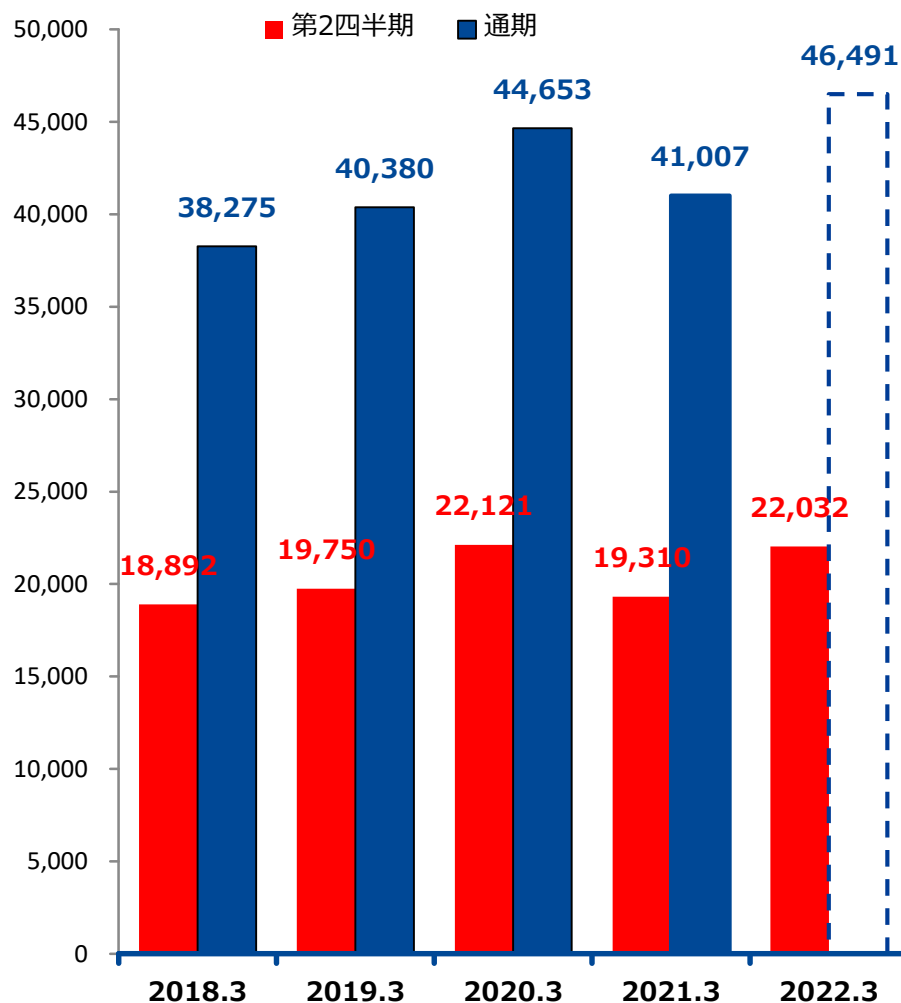
2. 当第2四半期(累計期間)の決算概況

要約損益計算書(第2四半期累計期間)

	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前年同期 実績 (百万円)	増減率 (%)
売上高	22,032	100.0	19,310	+14.1
売上総利益	2,519	11.4	2,245	+12.2
販管費	1,996	9.1	2,000	△0.2
営業利益	522	2.4	245	+113.2
経常利益	524	2.4	244	+114.5
四半期純利益	359	1.6	162	+120.9

売上高

(単位：百万円)



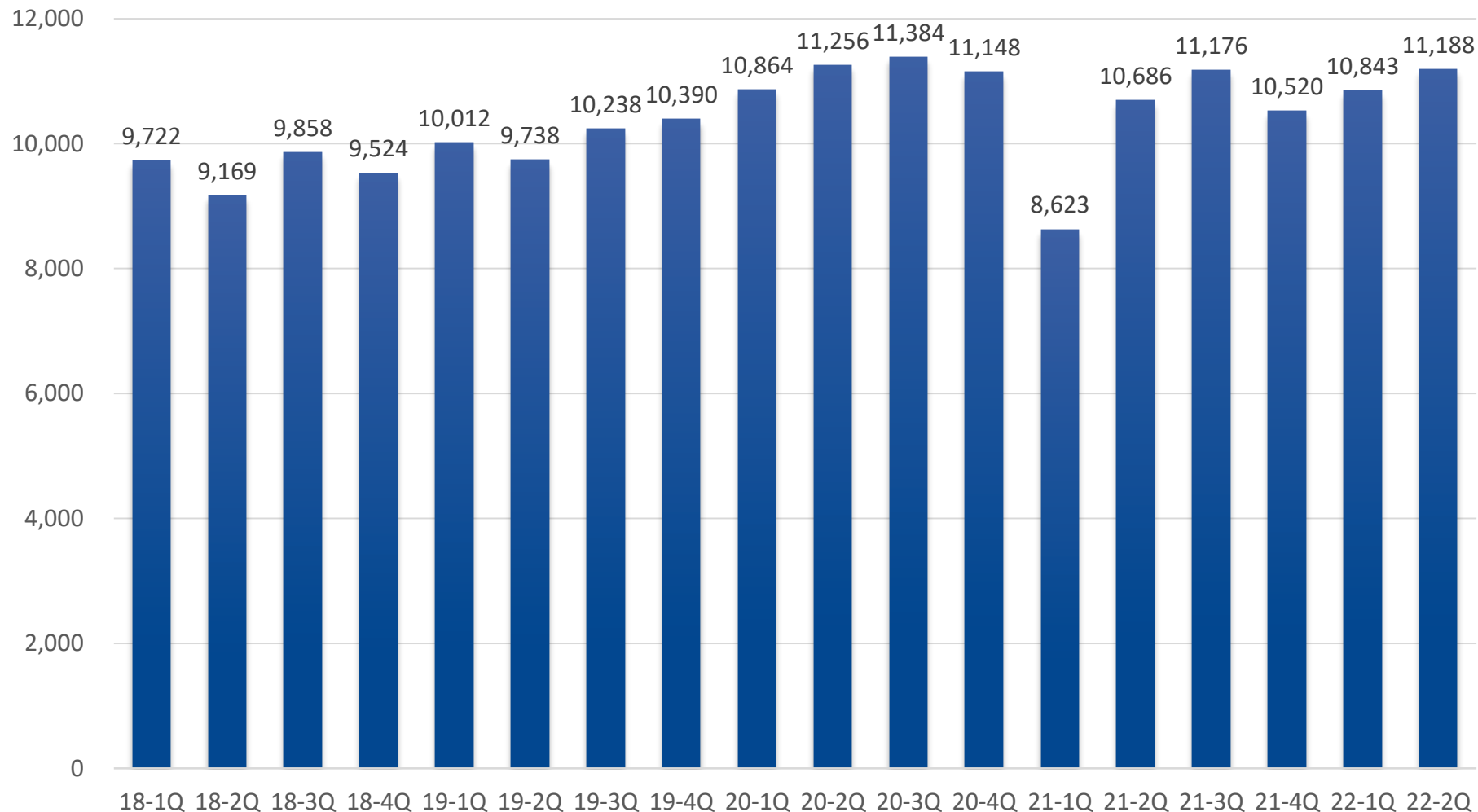
売上高**220.3億円**
前年同期比**14.1%増**

- ✓ 不整脈事業回復、その他事業続伸
- ✓ 前々年同期比 0.4%減

事業区分	金額 (百万円)	対前年 同期比 (%)
不整脈	19,114	+15.5
虚血	1,498	△4.2
その他	1,419	+19.2
合計	22,032	+14.1

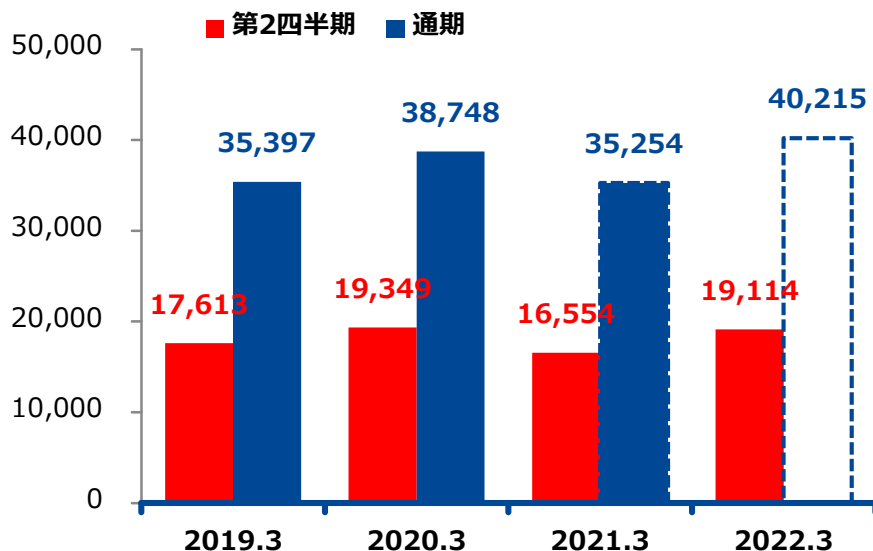
四半期売上高の推移

(単位：百万円)



売上高(不整脈事業)

(単位：百万円)



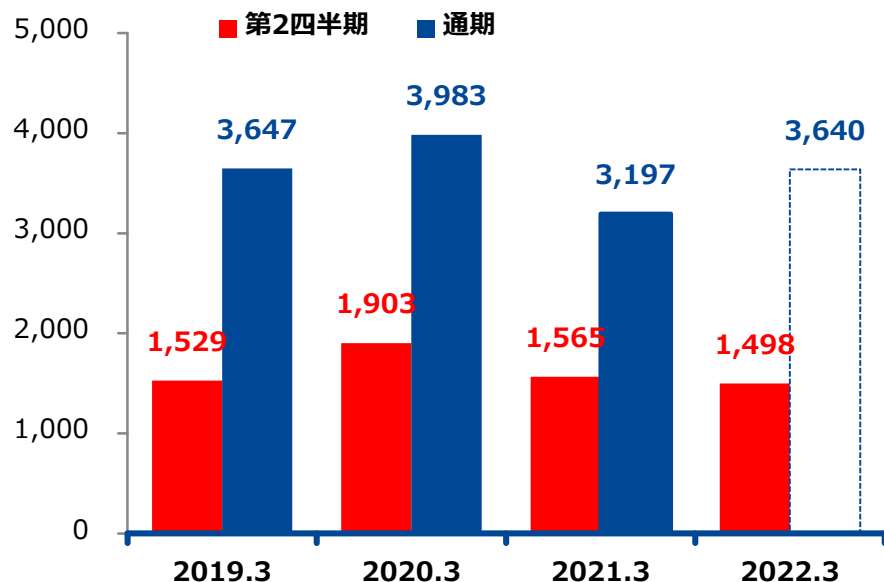
売上高**191.1億円**
前年同期比**15.5%増**

- ✓ 症例数の回復
- ✓ 電極カテーテル(電気生理検査用)が好調
- ✓ 前々年同期比1.2%減

	実績 (百万円)	前年同期 実績 (百万円)	増減率 (%)
PM	1,932	1,686	+14.6
ICD	1,008	869	+15.9
CRT-D	1,001	914	+9.5
電極カテーテル	5,357	4,291	+24.8
心腔内エコーカテ	1,896	1,741	+8.9
ABL機能付	3,065	2,744	+11.7
ABLカテーテル	212	264	△19.7
冷凍ABLカテ	1,144	799	+43.2
その他	3,496	3,241	+7.9
合計	19,114	16,554	+15.5

売上高(虚血事業)

(単位：百万円)



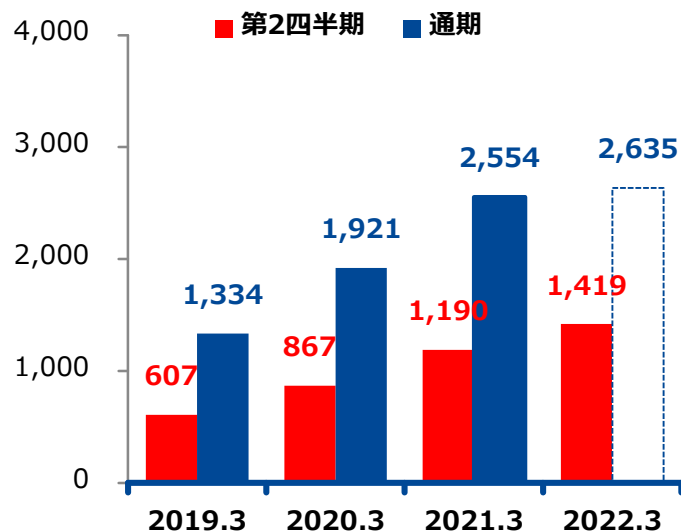
売上高14.9億円
前年同期比4.2%減

- ✓ レーザー本体の売上高減少
- ✓ 前々年同期比21.3%減

	実績 (百万円)	前年同期 実績 (百万円)	増減率 (%)
SPNC	546	615	△11.3
その他	952	949	+0.4
合計	1,498	1,565	△4.2

売上高(その他事業)

(単位：百万円)



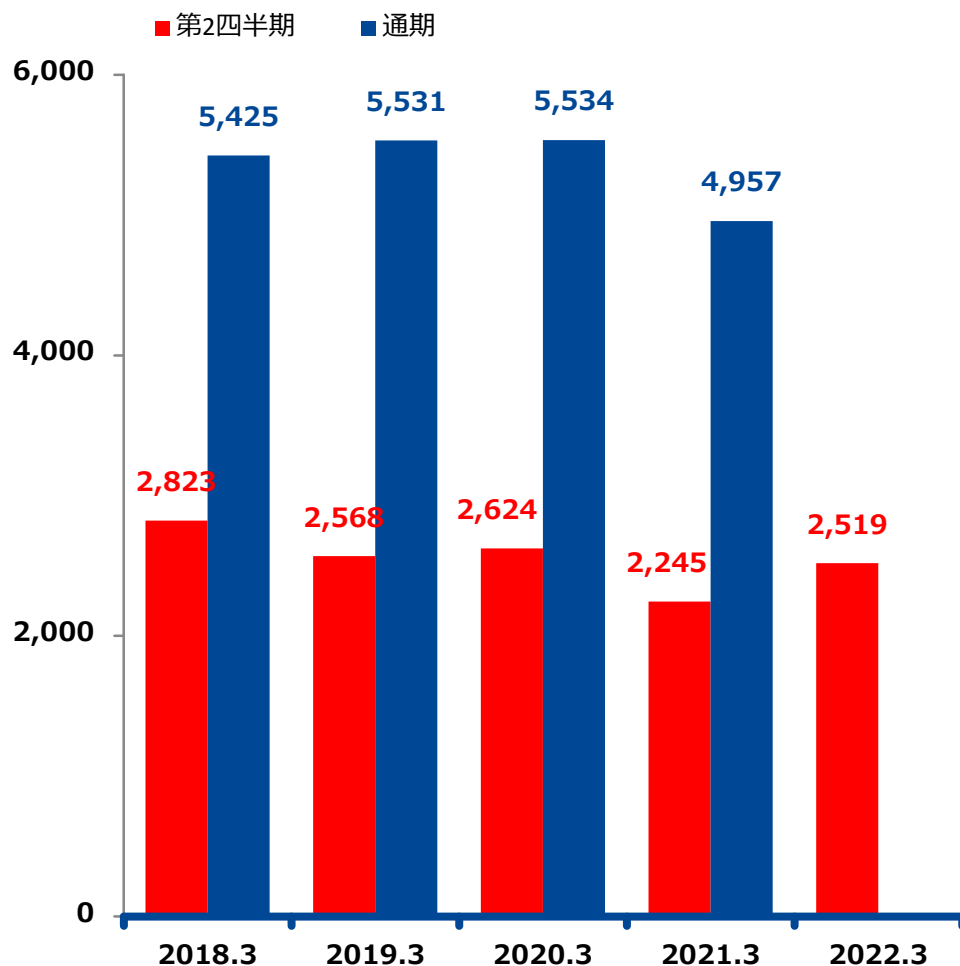
売上高14.1億円
前年同期比19.2%増

- ✓TAVI関連の好調
- ✓脳動脈瘤コイル塞栓術関連の好調
- ✓前々年同期比63.5%増

	実績 (百万円)	前年同期 実績 (百万円)	増減率 (%)
ストラクチャー	527	444	+18.8
頭部腹部領域	549	464	+18.1
心臓血管外科	71	50	+42.7
外科	64	45	+41.1
その他	206	185	+11.1
合計	1,419	1,190	+19.2

売上総利益

(単位：百万円)



売上総利益**25.1億円**
前年同期比**12.2%増**

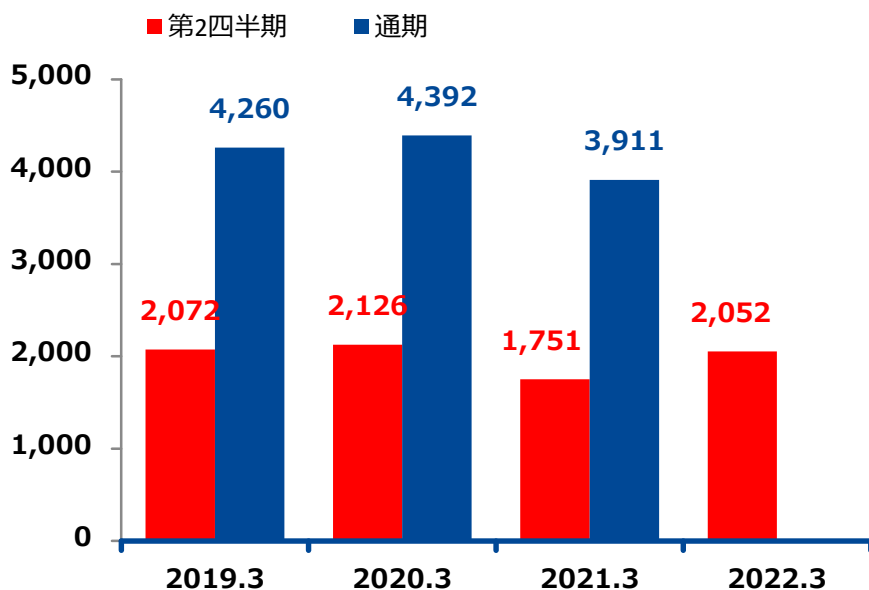
- ✓ 不整脈事業の粗利増加
- ✓ 粗利率11.4%(前年同期11.6%)

	金額 (百万円)	対前年 同期比 (%)
不整脈	2,052	+17.2
虚血	309	△9.1
その他	157	+3.1
合計	2,519	+12.2

売上総利益(事業別)

不整脈事業

(単位：百万円)

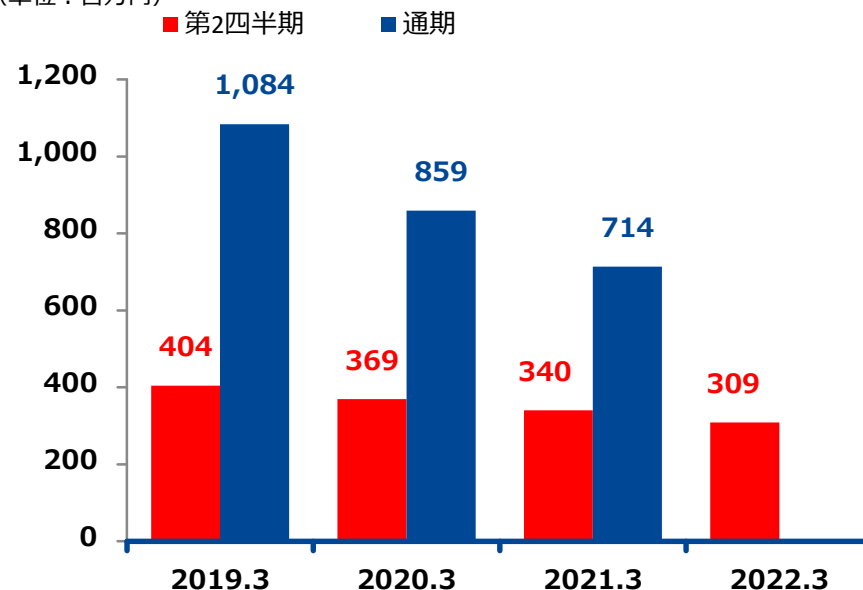


セグメント利益20.5億円
前期比17.2%増

- ✓ 粗利率10.7%(前年同期10.6%)
- ✓ 高利益商品の販売拡大、インセンティブの獲得拡大

虚血事業

(単位：百万円)



セグメント利益3.0億円
前期比9.1%減

- ✓ 粗利率20.7%(前年同期21.8%)
- ✓ レーザー本体の売上高減少

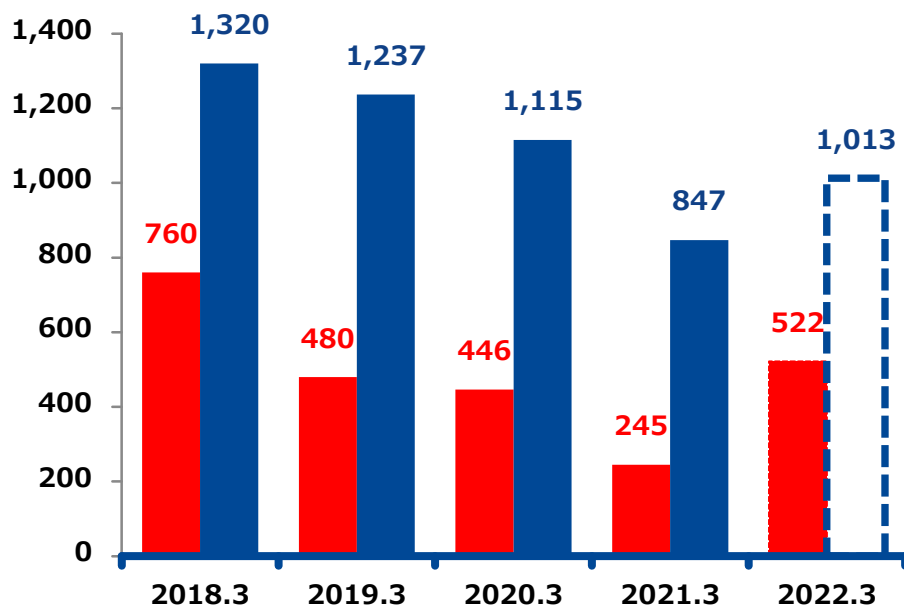
営業利益

営業利益**5.2億円**
前年同期比**113.2%増**

- ✓ 売上高が2,722百万円増加
- ✓ 売上総利益が274百万円増加
- ✓ 販管費が3百万円減少
- ✓ 売上高販管費率9.1%(前年同期10.4%)

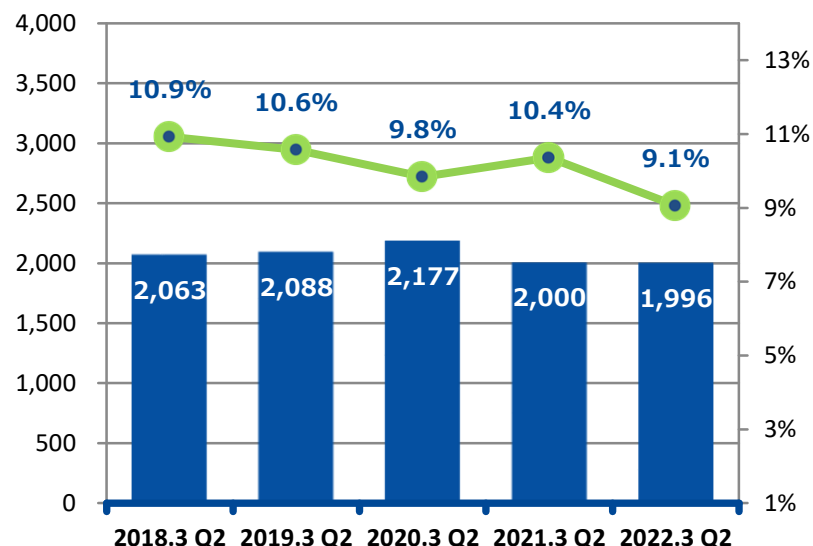
(単位：百万円)

■ 第2四半期 ■ 通期



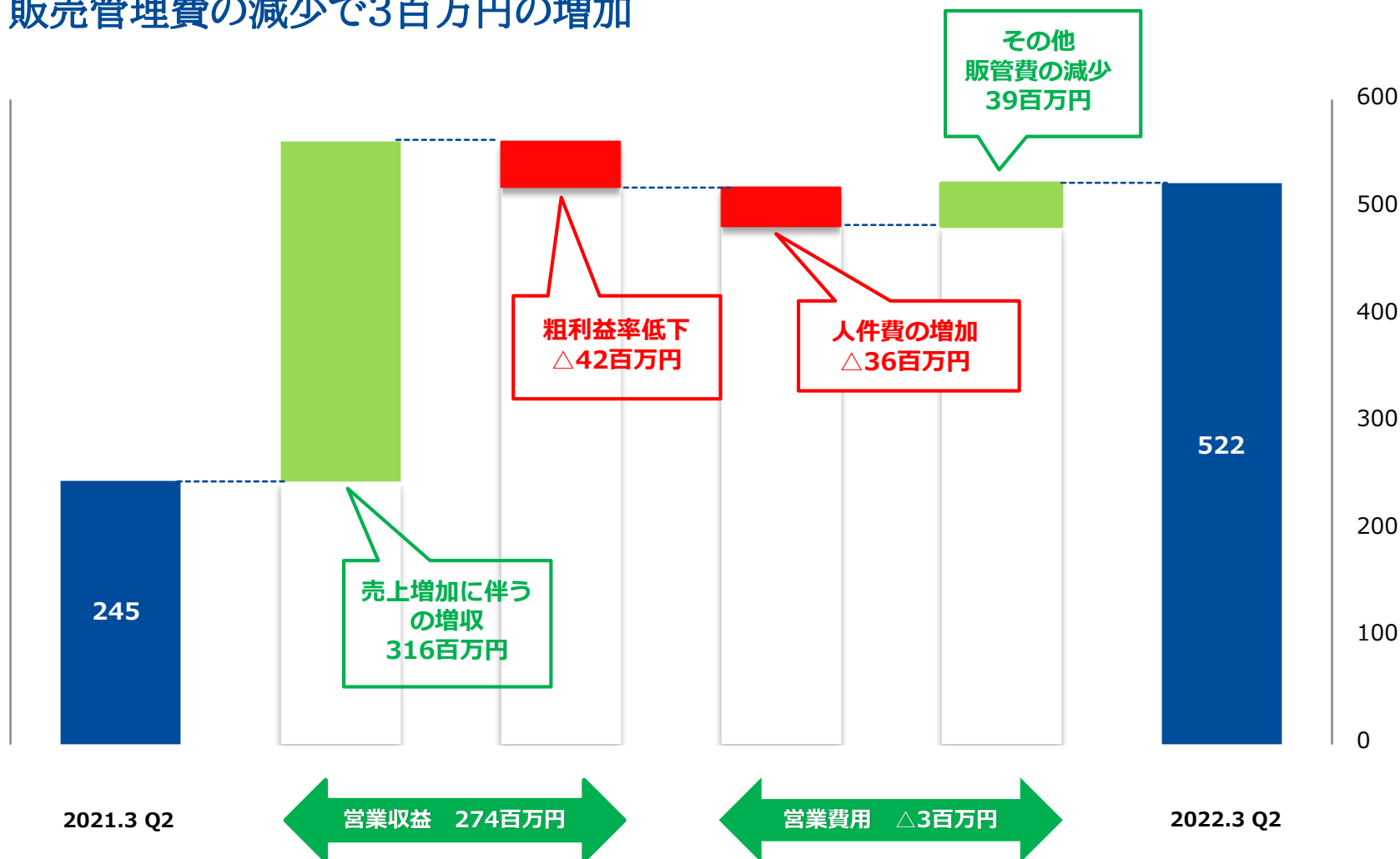
(単位：百万円)

■ 販管費 ● 販管費比率



営業利益増減分析

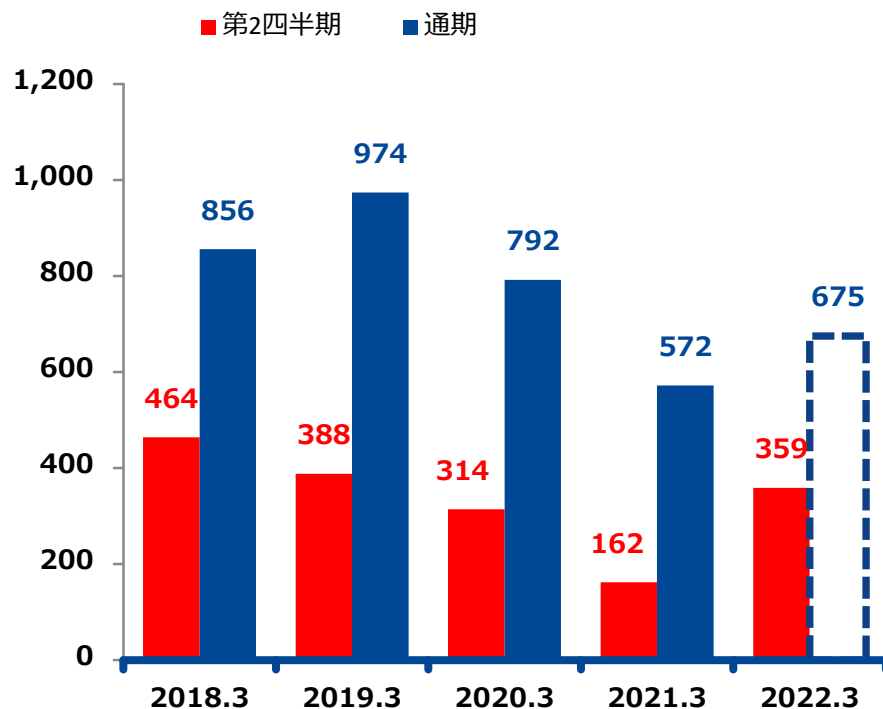
- ✓ 売上高の増加で316百万円増加、粗利率の低下で42百万円減少、
販売管理費の減少で3百万円の増加



四半期純利益

四半期純利益3.5億円
前年同期比120.9%増

(単位：百万円)



✓ 営業利益	522,959千円
✓ 営業外収益	2,417千円
✓ 営業外費用	1,190千円
✓ 経常利益	524,185千円
✓ 特別利益	99千円
✓ 特別損失	17千円
✓ 税引前四半期純利益	524,268千円
✓ 法人税等	164,406千円
✓ 四半期純利益	359,861千円

要約貸借対照表(第2四半期末)

	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末実績 (百万円)	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	20,021	93.6	19,176	+4.4	● 現金及び預金の増加(621百万円) ● 受取手形、売掛金及び契約資産の増加(459百万円) ● 商品の減少(△191百万円)
固定資産	1,366	6.4	1,391	△1.8	● 営業用資産(デモ・レンタル機)の償却による有形固定資産の減少(△28百万円)
資産合計	21,387	100.0	20,568	+4.0	
流動負債	12,843	60.1	12,197	+5.3	● 買掛金の増加(740百万円)
固定負債	472	2.2	448	+5.2	● 退職給付引当金の増加(23百万円)
負債合計	13,316	62.3	12,646	+5.3	
純資産	8,071	37.7	7,922	+1.9	● 四半期純利益による増加(359百万円) ● 剰余金の配当による減少(△247百万円)
負債純資産合計	21,387	100.0	20,568	+4.0	

要約キャッシュ・フロー(第2四半期累計期間)

	当期 (百万円)	前年同期 (百万円)	主な増減要因 (対前年同期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	894	1,231	● 税引前四半期純利益(280百万円) ● 売上債権増減額(△1053百万円) ● 棚卸資産増減額(△174百万円) ● 仕入債務増減額(885百万円)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25	△97	● 有形固定資産の取得による支出の減少(115百万円)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△248	△265	● 長期借入金の返済による支出の減少(20百万円)
現金及び現金同等物の増減額	621	865	
現金及び現金同等物の期首残高	6,486	5,232	
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,107	6,098	

3. 2022年3月期の見通し

新型コロナウイルス感染症の影響

2022年3月業績見通しにおける新型コロナウイルス感染症による影響の前提

- ①第1四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響が継続する。東京、大阪、京都を対象に4月25日から開始し、その後対象地域を追加し、期間が5月末日まで延長された緊急事態宣言期間においてはその影響を反映する。
- ②第2四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響が継続するが、その影響は第1四半期より軽減する。

③第3四半期および第4四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響は限定的とする。



③第3四半期および第4四半期は新型コロナウイルス感染症による症例数への影響は縮小に向かうが、関東、関西を中心に影響はいまだ継続する。

2022年3月期の取り組み

下期も取り組みを継続

①売上高伸長率の向上

- ☒ 施設拡大 ☒ 品目拡大 ☒ 医療機関との交渉強化 ☒ CDR認定教育
- ☒ SUD回収事業

②売上総利益(粗利)率の改善と営業利益の確保

- ☒ 高利益率商品の売上高構成比のアップ ☒ メーカーとの交渉強化
- ☒ 拠点単位での適正な営業利益確保

③海外展開の具体化

- ☒ 自社製品について技術的準備、営業的準備のうえ輸出を具体化



下期の追加的な取り組み

■ RAQUOSの販売(品目拡大、高利益率商品の導入)

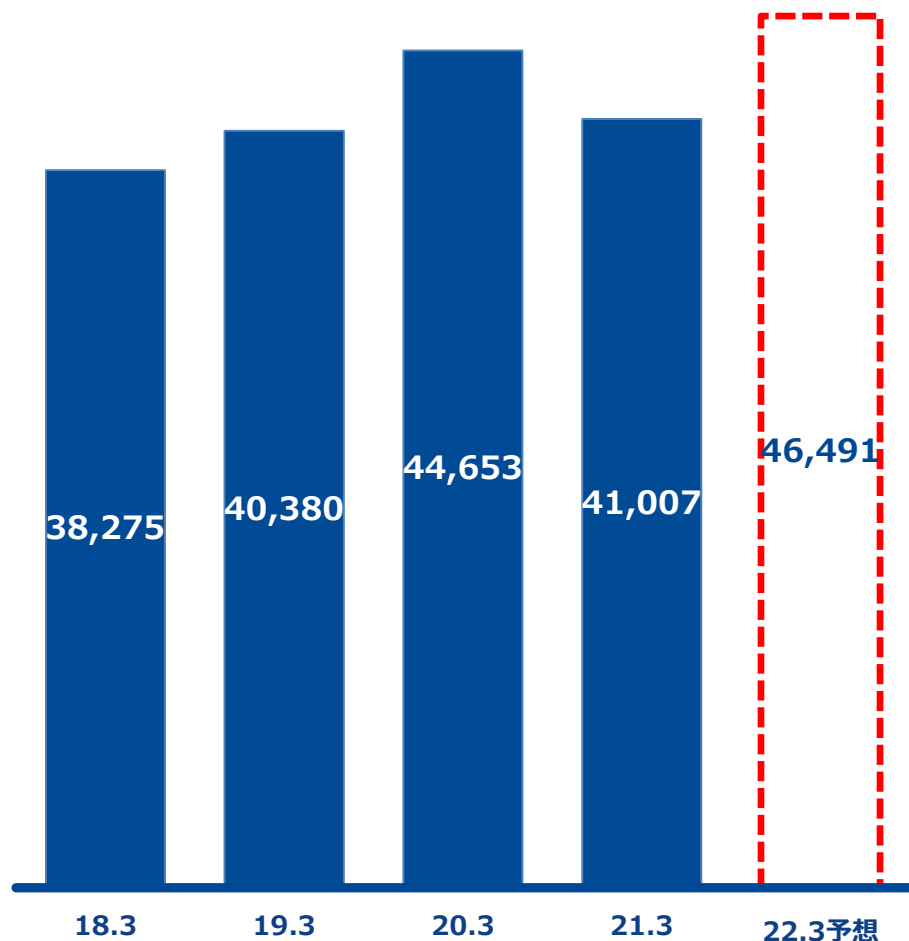
■ 海外医療機器メーカーとの戦略的商談(品目拡大、高利益率商品の導入)

■ 大型機器の販売強化(品目拡大、高利益率商品の導入)

■ カテーテルリサイクル事業の検討(品目拡大、環境保全)

業績予想(売上高)

(単位：百万円)

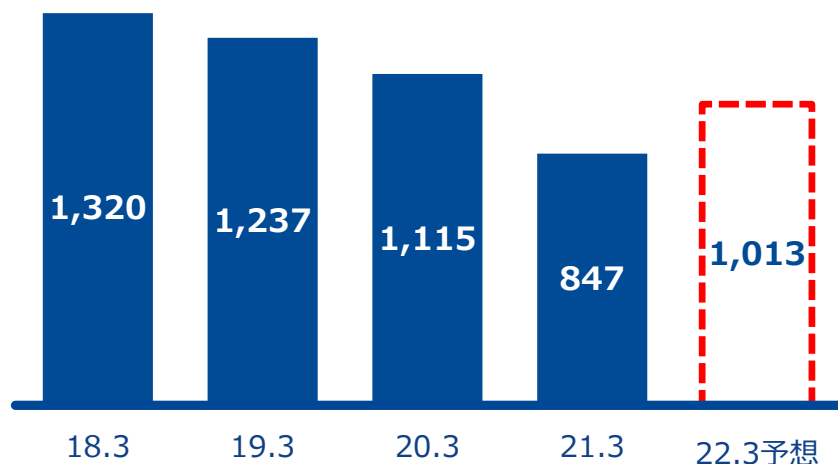


売上高 464.9億円
前期比13.4%増

- ✓ 新型コロナウイルス感染症による影響の縮小を見込む
- ✓ 新規施設拡大、品目拡大による売上増加を見込む
- ✓ 新型コロナウイルス感染症による影響が微小であった2020年3月期実績に対して4.1%増の水準

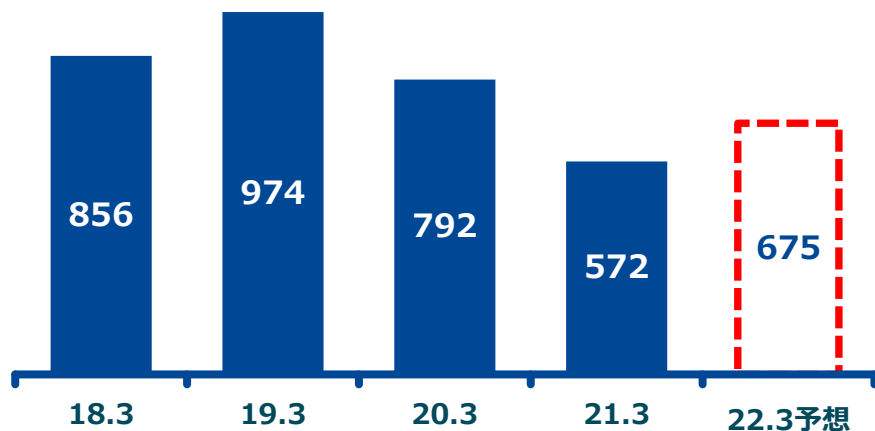
業績予想(営業利益、当期純利益)

(単位：百万円)



営業利益 10.1億円
前期比19.6%増

- ✓ 売上高の増加(営業利益増加要因)
- ✓ 売上総利益率の低下(営業利益減少要因)
- ✓ 販売管理費の増加(営業利益減少要因)



当期純利益6.7億円
前期比18.0%増

予想EPS 65円45銭
前期実績 55円60銭

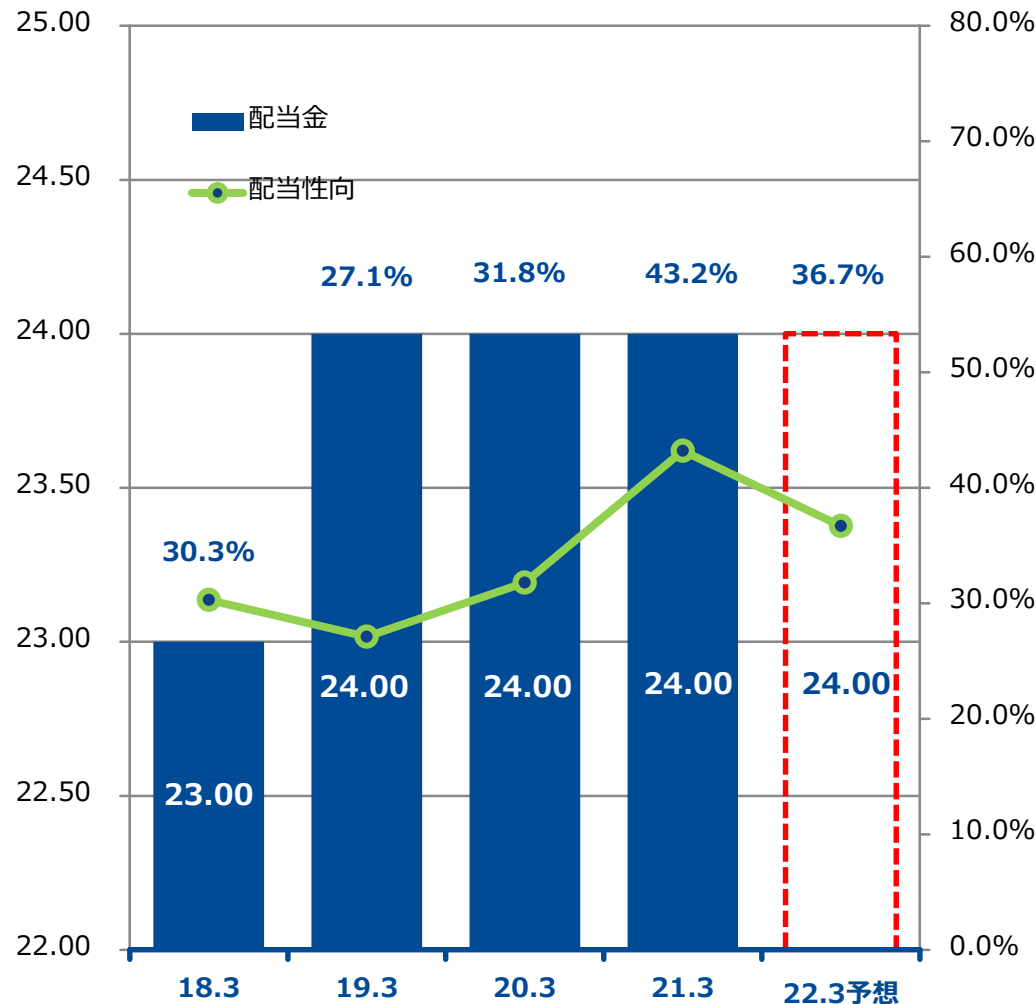
2022年3月期(進捗率)

(単位：百万円)

	通期 (計画)	当第2四半期 (累計実績)	通期 (進捗率)
売上高	46,491	22,032	47.4%
営業利益	1,013	522	51.6%
経常利益	1,013	524	51.7%
当期純利益	675	359	53.3%

配当予想

(単位：円)



期末配当金24.0円
2021年3月期24.0円

配当性向 36.7%
2021年3月期43.2%

配当方針の継続

✓ 継続的かつ安定的な配当による株主還元を行うことを基本として配当を決定する

 Development
Venture
X (無限の可能性)

■ I R についてのお問い合わせ先 財務経理部



TEL : 03-5985-6832 FAX : 03-5985-6106 U R L <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。